

魔法の言葉 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名： 日置節子

所属： 大阪府立寝屋川支援学校

記録日：2018年 2月3日

キーワード： 見通し、 語彙力、 動画・写真

【対象児の情報】

・学年 小学部1年

・障害名 知的障がいを伴う自閉症 注意欠損多動性障がい (AD/HD)

・障害と困難の内容

- ・初めて活動、場所などへの不安が強い。大勢の友達との設定された集団活動への参加が不得手。
- ・2語文程度で要求を伝えることができる。
- ・聴覚過敏がある。(イヤマフ使用)

【活動目的】

・当初のねらい

<今年度の学習目標>

- ① これから起こる事象をイメージして、自分で行動する。
- ② 身近な事物(人、場所、学校での活動など)への理解を深め、名称を言葉で表現したり、伝える手段としてたりできる。

・実施期間 平成29年5月1日～2月7日

・実施者 日置節子

・実施者と対象児の関係 クラス担任

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

<4月の様子>

入学して間もない4月、対象児(Kくん)は学校での新しい事象、好きな場所などを少しずつ覚え、担任と言葉やシンボルでやりとりができるようになっていった。例えば、好きな遊具がある「中庭」「遊戯室」はすぐに覚え、「すべりだい、する」などの表現で、遊びに行きたいことを担任に伝えることができるようになった。しだいに、ホームクラスでの活動(本児含めて5名)では、担任の話友達と一緒に聞いたり、DVDを見て楽しんだりできるようになった。

しかし、集団での活動(学年24名、小学部108名)になると、活動参加が難しかった。友達が自分の教室に集まり始めると、好きなDVDを見ていても、急に教室内のトイレに隠れてしまった。また移動教室では、教室に入ることができず授業中ずっと廊下で過ごし、扉を開けることを拒否して抑え込むことがほとんどだった。

学年集団での授業では、体育、音楽、ゲームなどに取り組んでいたが、本児はクラス集団の中では、同じ内容に積極的に取り組むことができた。また、遊戯室では、学年集団で楽しく遊ぶことができた。友達に対して苦手意識はなく、同じように行動しようという様子も見られた。

このことから、本児は、「集団での設定活動に強い不安があり、活動参加ができないでいる」と考えられた。不安の理由は、「苦手な音」「指示の分かりにくさ」「想いの通りにくさ」などが予想された。

活動内容のイメージを持つこと、活動を見ること、同じ場に入ること、できることから少しずつ体験を重ねることで、集団活動に慣れていくことができると思われた。

<保育園からの引き継ぎ内容>

集団参加が不得手で、教室の隅や別室での個別対応をすることが多い。また、運動会などの行事に取り組む際は、友達の活動を見る期間をとり、イメージを持てるようになってから活動に参加していたとのことだった。やりとり時は、シンボルやシンボルに添えた言葉で、本児に内容を伝えていたと聞きとった。

引き継ぎから確認したこと：**集団活動の苦手** **イメージづくりの必要性** **視覚からの情報理解が得意**

・活動の具体的内容と児童の変化

●動画を見て授業の様子・内容・場所・活動行程などをイメージする

<留意したこと>

- ・伝わりやすい動画の形態を工夫する。(長さは1分程度の短いもの、レンズが子どもの視点の主観的な動画)
- ・iPadの操作方法を伝え、動画を見るタイミングや回数を可能な範囲で本児が決められるようにした。

・活動のイメージづくりの動画視聴

苦手が予想される活動前に、動画を視聴した。担任は新しい教室や場所、学年集団活動の実際の様子、製作活動の行程など、取り組もうとする活動をイメージしやすいと思われる動画を、可能な限り用意するようにした。

視聴の回数は時間割によってまちまちだったが、平均して週に数回程度の視聴だった。視聴時間は、朝の会や活動の直前などが多かった。クラスの友達と一齊に見たり、対象児だけiPadを使って見たりと、視聴の方法も色々であった。

・活動場所に入れない時の動画視聴

教室の扉を開けることや、教室をのぞいて見ることへの不安感が強く、活動への接点を持てない時に動画を活用した。活動場所で実際の活動の様子を担任が撮影し、即時に視聴を促した。対象児は、ほとんどの動画を数回見返すことが多かった。友達の活動の様子を直接見ることはできなくても、それを撮影した動画を見ることには抵抗がなく、自分で操作をして繰り返し見返す動画もあった。



写真左：今から向かう交通安全学習で使う信号機の教材を事前に視聴する対象児。朝の会での視聴後に、一人で繰り返し見返す様子。実際の活動時は、3学年児童集団の中で、横断歩道を一人で渡ることができた。



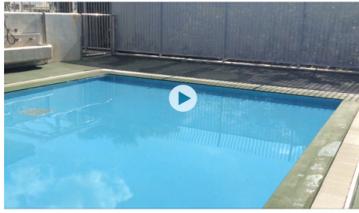
写真右：体育館の扉を閉めて中を見ることができない本児に、担任が見せた動画。本児が好みそうな活動「的倒し」が始まろうとする様子。この後、自分から体育館に入り、的を倒す活動に部分的に参加することができた。

Kくんの体験を後押しした動画（抜粋）

●内容

※場所

■集団の様子



●※プール



●■マット倒し（学年集団）



※音楽室



※散歩の目的地



●■つながりダンス
（学部集会）



●船作り（図工）

動画に含む情報を大別すると、主に内容・場所・集団の様子に分けられた

・製作行程を理解し、模倣しながら作るための動画視聴

主に図工の授業で動画を視聴した。（週に1回程度）担任は授業前の休み時間に、教室のテレビで動画を繰り返し流し、自由に見ることができるようにした。本児はその動画を繰り返し見ていることが多かった。

図工の授業の導入時には、本児を含むグループの児童（6人）全員で動画を見てから製作を始める、というルーティンを作った。作品作りが始まると、本児は、iPadで動画を再生したり、テレビで流れる動画を見たりしながら製作を行なうことが多かった。

「ほしぞらをぬろう」



写真左：絵の具をぬる行程の動画を繰り返し見ながら色ぬりをする。動画を繰り返し再生しようとする対象児。最後まで色を塗り上げた。

「スライムづくり」



写真右：始めは気持ちが向きにくかったが、動画を見ながら、友達と離れた場所でスライムを作ることができた。

●身近な事物の名称を画像・言葉・文字で確かめ、理解したり表現できたりする言葉を増やす

・ことばあつめと文字への興味の広がり 9月～

本児が話す言葉、学校での様子、家庭からの情報などから、本児が興味を持っているキャラクターや、馴染みのある活動、場所、遊具などの画像を選び、担任が独自に、または本児に尋ねながら iPad に保存していた。それらを元に、「画像イメージ」「名称を示す言葉の表記」「音声」を元に、アプリ Bitsboard を使ったゲームに取り組んだ。(休み時間に週に2～3回、5分～10分程度実施)

10回程度取り組むことで、「名称を示す言葉の表記(ドラえもん・あんぱんまん・ろーるぱんな)」の3種から、画像に合った単語を、全問正しく選び取ることができるようになった。(9月～)

単語を一文字ずつに分けてのマッチングゲームでは、ヒントの薄い文字を見ながら平仮名の形を見分けて、正しくマッチングすることができた。(11月)

・ドラえもんの運動会

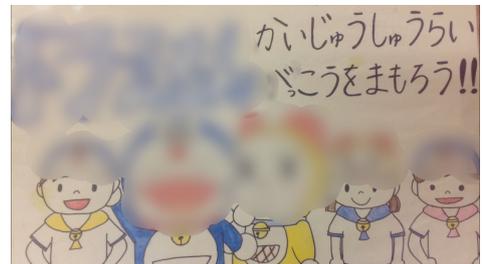
運動会の演技のテーマが「ドラえもん」になった。担任は演技のストーリーがデジタル絵本になった動画を作成して、教室で流したり、朝の会で見せたりした。本児は動画を気に入って、「ドラえもん、みます」と言っていて、繰り返し視聴した。家庭に iPad を持ち帰った時も、繰り返し動画を見返していたと保護者から聞き取った。デジタル絵本のセリフを暗記して、動画と一緒に話すようになった。また「ドラえもんダンス、します」「OOくん(自分の名前)ドラえもん！」などと、話した。(9月)



写真左：薄い平仮名のヒントに合う平仮名を上下に動かして、マッチングする活動。画像は本児が「おぼん運び」をしているところ



アプリ：「Bitsboard pro」



写真右：運動会のテーマの動画絵本
手書きのイラストと手作りストーリーから動画絵本を作成し、対象児童がいつでも見ることができるよう iPad に保存した。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

自分に関わる動画、画像、音声を繰り返し見聞きすることが、自分を取り囲む新しい事物への理解を助けたのではないかと。

・エビデンス

<集団活動での様子 2月現在>

学年集団が集まる授業の中でも、特に授業の流れにパターンがある授業は、教室にスムーズに入っていけるようになった。椅子に座らず立ち歩きながらも、完全に教室の外に出てしまうことがなくなり、活動に気持ちを向けて参加できることが増えた。

時に学年集団で新しい活動が始まると、不安から教室の外に出ることがあるが、しばらくすると聞き慣れた音楽などをきっかけに教室に自分から入ってくるができる。完全に扉を閉めて『活動に接点を持ってない』という集団での授業がなくなった。教室の外に出ている時でも、扉を開けて中の様子を見ようとするようになった。

クラスルームでの着替え、給食などの日常生活の活動や、小グループでの授業（図工・かずことば）では、自分から活動に取り組むことが増え、友達の様子を見ながら行動していることが多い。



写真左：小学部集会（2月）

少し離れたステージが対象児の「いつもの場所」になった。集会の間、ゲームに声援を送りながら笑顔で参加した。



写真右：小学部集会（2月）

集会の最初に、100人ほどの友達の前で、好きなことをマイクで話した。たくさんの拍手をもらった。

「ロールパンナちゃんが好きです！」

<スケジュールを知りたい！ 2月現在>

入学時は、学校生活に対して全くイメージがなかった本児だったが、苦手な活動であっても、**①動画・画像で確かめる**、**②できることから体験する・見聞きする**、**③具体的なイメージを持つ**、**④活動を示すシンボル・言葉を理解する**、という過程を経ながら、少しずつ自分を取り囲む事柄を理解していったと思われる。この過程で『動画・画像』は、不安でいっぱいの本児が、活動を『体験する・見聞きする』ための一歩を踏み出す支えとなった。

現在本児は、示された予定カードを指差して、言葉を話しながら一つずつ確かめることができるようになった。「かず・ことば」「たいいく」などの教科名を覚えて、文字を一文字ずつ指差して拾い読みしたり、「〇〇（活動名）をしてから、おそとであそびます」と担任に自分の見通しを確認したりしている。

家庭からは、学校の予定で楽しみにしていることをイラスト、文字で書いて欲しいようになり、一緒に予定を確認している、とのコメントをもらった。

<平仮名のひろい読み 2月現在>

授業名、給食のメニューなどをシンボルや写真で確かめながら、ひらがなの一文字ずつをカードで選択して、言葉を作ることができるようになった。拾い読みながら単語を作っている。文字への興味が高まってきて、設定された活動以外でも絵本のタイトルを拾い読みしたり、ひらがなの単語を書いたりする様子が見られるようになった。



写真左：「きゅうしょくをたべてから、はみがきします」帰りの会で、覚えた授業名を話し、スケジュールを指差ししながら確かめる様子



写真右：「は・や・し・ら・い・す」と一文字ずつ読みながら、給食のメニューをひらがなカードで並べる様子

・その他のエピソード

動画による家庭との連携

6月より、週末に保護者とiPadを介して学校の様子、家庭での様子を動画（写真）で伝えあう取り組みを行なった。学校からは、本児の活動の様子や動画教材を持ち帰った。家庭からは、日常生活の様子・外出時の様子・ブームになっている遊びなどを動画で撮影してもらった。

<家庭で撮影された画像より抜粋>



左：20分ほど集中してお絵描きをする対象児。その後の図工の授業での題材に取り入れるようにした

右：クッキングをする様子。調理が得意であることがわかり、集団での調理実習時の本児の取り組む様子をイメージできた

本児が学校生活にまだ慣れない1学期頃、担任は、活動を拒否している本児の様子を見るが多かった。iPadで家庭から伝えられる動画から、好きなことに生き生きと取り組み、楽しんでいる本児の具体的な様子を知ることができた。また、iPadの家庭への持ち帰り時に、本児が好んで視聴している動画があることを、保護者から聞き取った。「歌ビデオ」「行事に関わる写真や動画」「図工の作品で友達と一緒に遊んでいる写真」などを家庭で自ら見返していたと聞き、本児が興味を持っていることを知る機会となった。

動画は、担任と保護者とが学校と家庭の二つの場での対象児の姿を伝え合い、共通の理解や信頼関係を築くためのツールとなった。